

平成29年11月22日

長崎県立大学	
担当課	シーボルト校 総務企画課 企画グループ
T E L	095-813-5500
担当者	藤井

「情報セキュリティの経済学的側面 ～ロンドンの大学教員・ゲーム理論研究者が語る夕べ～」の開催について

本学では、大学では全国初となる情報セキュリティ学科を設置し、企業や行政機関などの情報セキュリティ分野で活躍できる人材の育成を行っておりますが、このたび、同学科において下記のとおり講演会の開催を予定しておりますので、お知らせします。

#### 記

1. 日時

平成29年12月15日（金）17:00～18:00

2. 場所

長崎県立大学シーボルト校 中央棟 M103 講義室  
(長崎県西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1)

3. 講演タイトル

A Model for Secure and Mutually Beneficial Software Vulnerability Sharing in  
Competitive Environments  
(競合環境における安全で相互に有益なソフトウェア脆弱性情報共有モデル)

4. 講師

ロンドン大学 ロイヤルホロウェイ Carlos Cid 教授

5. 主催

長崎県立大学 情報システム学部 情報セキュリティ学科

6. お申し込み

以下のメールアドレスにお申し込みください。（当日参加も可）  
メールアドレス：gaku.jutsukouen-sec@sun.ac.jp

※詳細は、別添のチラシをご参照ください。



ROYAL  
HOLLOWAY  
UNIVERSITY  
OF LONDON



長崎県立大学  
UNIVERSITY OF NAGASAKI

# 情報セキュリティの経済学的側面

— ロンドンの大学教員・ゲーム理論研究者が語る夕べ —



参加費  
無料

通訳  
付き

日時：平成29年12月15日(金)17:00-18:00 (16:30開場)

会場：長崎県立大学 シーボルト校 中央棟 M103講義室

講演タイトル

(英語での講演を逐次通訳します)

## A Model for Secure and Mutually Beneficial Software Vulnerability Sharing in Competitive Environments

(競合環境における安全で相互に有益なソフトウェア脆弱性情報共有モデル)

講演者 Carlos Cid教授, ロンドン大学 ロイヤルホロウェイ



二つの競合する企業の一方が、コストをかけてサイバーセキュリティに関する知見を見出したとします。このとき、その知見をその企業の秘密として活用するのがよいのでしょうか？それとも、部分的に開示し、相手から見返りに更なる知見をもらえることを期待するほうがよいのでしょうか？このような駆け引きのある状況はいわゆるゲーム理論で扱うことができます。

本講演では、ソフトウェアの脆弱性情報を対象に経済学的なゲーム理論を用いた研究成果をCid教授が紹介します。研究においては、脆弱性の調査にどれだけ投資すべきか、また、調査結果をどの程度情報共有すべきかを数学的に扱います。特に、数学の概念である"完全ベイジアン均衡"という特徴を描写していきます。さらに、企業が合意した一定の値まで平等に情報を開示し合う"プライベートセットオペレーション"なるプロトコル(やり取り)を説明します。

**Carlos Cid 教授**

1999年にブラジリア大学にて博士号を取得(数学)。アーヘン工科大学(ドイツ)でポストドク、アイルランドでネットワークセキュリティエンジニアとして働いた後、2003年よりロンドン大学ロイヤルホロウェイの情報セキュリティグループに加わり、2014年より教授。2013年より同大学サイバーセキュリティ博士トレーニングセンターの責任者を務める。専門はサイバー経済学、暗号学。

■主催：長崎県立大学 情報システム学部 情報セキュリティ学科

■Webサイト：<http://sun.ac.jp/event/65638/>

■お問合せ：担当 穴田啓晃(情報セキュリティ学科教員)

[gakujutsukouen-sec@sun.ac.jp](mailto:gakujutsukouen-sec@sun.ac.jp)

■お申込み：以下のメールアドレスにお申し込みください。

(当日参加も可) [gakujutsukouen-sec@sun.ac.jp](mailto:gakujutsukouen-sec@sun.ac.jp)

